

Title	第十九世紀に於ける独逸經濟発達の一斑 (三)
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.9 (1915. 9) ,p.1043(85)- 1054(96)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150901-0085

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

生み全歐洲對革命佛國との大戦争となり、其結果此危急の事局を救済する爲め、古「ウイグ」派の「ボートランド」と「ウイグ」派の「ビット」等は「バーク」の仲介に依り合同して内閣を組織したり、之を新「トリ」内閣とす此内閣及「全能」内閣は、戦時内閣なる點に於て、最も善く今回の聯立内閣と比較する事を得べし。

第五 聯立内閣 「全能」内閣 (一八〇七年)

「全能」内閣は「グレンヅキル」及「フォックス」なる「ウイグ」黨領袖と「シイドマース」派なる「トリ」黨員と合して、國會に於て總て才能ある人物を一切網羅したる内閣を組織し、今や朝日の如き勢を以て全歐大陸を併呑せむとせる佛奈翁との雌雄を決せんとせる爲めに起れり。

第六 聯立内閣 「アバーデーン」内閣 (一八五五年)

(一八五五年)

一八五二年保守黨領袖「アバーデーン」及「グラッドストーン」は自由黨の「ピール」派なる「ラセル」及「バーク」等と合して内閣を組織せり。此政府は「クリミア」戦争の失策を攻撃せられて瓦解せり。

第七 聯立内閣 第三「ソー」内閣 (一八五五年)

第八 聯立内閣 第二「バルファ」内閣 (一八五五年)

一八八六年首相「グラッドストーン」愛國自治法案を議會に提出するに至り、自由黨は分裂して、同黨領袖「チェンバレン」及「デボンシャー」一派は別に自由統一黨なる團體を組織せしが、一八九五年の第三次「ソー」内閣成立するに至り遂に之に入閣せり。

(六月三十日稿)

第十九世紀に於ける獨逸
經濟發達の一斑 (三)

高島佐一郎

目次

四 關稅同盟成立と工業勃興

五 信用銀行勃興と株式會社主權

其 四

劈頭一八三四年二千三百萬の人口を包容せる獨逸十八州の關稅同盟の締結に依り、茲に久しく商工業的交通の大障礙は除去せられ、後年爾餘諸州の來り投するに及んで獨逸關稅同盟が供與したる經濟的結合の使命愈々完し。之と同時に一八三四年約三哩四分三の「フルト」、「ニムレンベルヒ」間の鐵道が敷設せられたるを獨逸鐵路の權輿として鐵道の開設は着々進捗し、一八四五年には一千四百三十七哩、一八五〇年には

三千七百五十哩を超え、漸を以て廣濶且稠密なる鐵道網は建設せられ、今や三萬七千五百哩の延長を有して歐洲諸國の第一位を占むるに至れり。鐵道建設の約二十年前に於ける國內運輸は主として河川航行に依りて行はれ「ライン」、「エルベ」、「ダニュープ」の諸大流は常年交通の衝に當れり。産業發達の基礎は斯の如くにして据えられて獨逸諸邦の各部分は相互密邇に交渉することとなり、經濟關係近接し各般の利害關係は更に共通の礎石の上に建設せらるゝに至り、關稅同盟全領域内に於ける消費貨物の物價は漸次均一し、物價變動も亦規則的なるを致せり。今にして來因地方及普魯西偏輒地方間に於ける食料品物價の差異が五割以上に達せる同盟前の經濟狀態を顧みれば誰か隔世の感なきを得可き。

交通斯く繁きを加ふると同時に國內各地方の經濟的條件の相異に依り漸次生産上の地方的分布著明なるに至る可きは當然なりとす。實に近

世工業の各種類は各々其自然的狀態條件が其生産に最も適應せる地方に隆興したりしを見る。工業上の改良發達殊に蒸氣機關の利用の普及は急調を以て工業的發展を刺戟せる所ありしに、此工業上の發達は第十九世紀の四十年代英國製造工業の壓倒的競争に對抗せんが爲め、國內の幼稚産業保護を目的とせる關稅改革の實施せらるゝに會し、更に數段の大飛躍を爲したりき。爾後漸展して今日の大組織に發達したる「クルップ」、「ボルジッヒ」、「ドンナースマルク」等を始めとし數十百の大工業的企業は當時既に「ライオン」地方「ウェストフリア」、「シレジア」等に勃興したり。

今少く工業發達の軌跡を示す一資料として普魯西國內に於ける工業用の固定蒸氣機械及其馬力に表はれたる發達を閱すれば、一八三七年には四百二十一臺七千五百馬力に過ぎざりしが、一八四六年には一千百三十九臺二萬一千七百十

六馬力、一八七九年には二萬九千八百九十五臺百八十八萬七千七百八十四馬力、一九〇一年には七萬五千九百五十八臺三百七十萬九千六百六十二馬力に達し、今や實に八百萬馬力の助力を有せり。

斯くて漸次生産の全過程は愈々科學的基底の上に建設せられ、大量生産と大規模經營とは其經營を象徵するに至り、工業家企業家の注意及努力は絶へず經營の改良機械の發達の方面に傾倒せられて須くも熄むことなし。顧みれば製鐵業の此驚く可き發達は燃料として薪を石炭に代へたるに始まる。一八四七年中國中三百二十七箇の熔鑛爐中其三十二個のみ僅に石炭を使用せしと傳へらる。第十九世紀中葉獨逸關稅同盟領域内に於ける銑鐵生産高は遙に佛蘭西及自耳義の後塵を拜せるに過ぎざりしが、今日は合衆國を除きて世界何れの國の産出高にも超過せり。隨ひて鐵類製造品産出高及探炭量も徐進し來れ

ると同時に、各種の重要なる製造工場も漸く發達し、殊に一八四八年の政治的動亂の鎮靜後一八六〇乃至七〇年の十年間に於て活動を逞うしたり。斯の如き迅速且熾烈なる工業的發展は當然に建設及擴張資本並に經營資金に對する大需要を伴ひ來る可きは蓋し明なりと雖も、此種の大なる資本、信用の需要に應じて遺憾なきを期するが如きは、個人銀行又は個人資本家の到底不能なりとする所ならずんばあらず。是れ工業的企業と最も密接なる信用銀行の起り、且其組織が終に凡て株式組織銀行の形態を採るに至れる所以なりとす。

註、普魯西の主唱の下に普魯西を盟主とし獨逸諸邦を打て統一的なる一大經濟領域と化したる關稅同盟 Zollverein の成立は、同國の中世的經濟組織に事實上の致命傷を加へたと同時に、更に一步を進めて國內産業を保護し専ら英國工業の侵略を防ぐの目的を以て

せる一八四四年の關稅改革の前驅となり、漸次政治的統一の途上に横はれる荆棘を拓きつゝ終に普佛戰爭を機會として普魯西を羈王とせる獨逸帝國を成立せしむるに至りたるものにして、同國の經濟的政治的發達と不可離の關係を有するものなり。關稅同盟の成立後獨逸工業は漸次發達の途を辿りたりしも元より後進國、一八六〇年に至るも猶佛蘭西工業の半ばなるに過ぎざりき。然るに今や工業全體よりすれば合衆國及英國に次ぎて第三位、就中鐵工業に就ては合衆國に次ぎて第二位を占むるに至れり。其發達の迅速熾烈の狀寧ろ想見するに耐へずとす。而て此發達を助長したるもの其所由固より多々ありと雖も、今「リ―サー」博士に従へば、獨逸探炭の發達、一八四四年の關稅改革が鐵類に過重の保護税を課し自由貿易政策を撤廢せること並に同國信用銀行の有力なる工業援助を推す可し。其結

果は輒ち顯はれて一般工業殊に製鐵、採炭、纖維工業等の大發達となり、一八八〇年に至る十年間に獨逸經濟組織は遂に一變せらるゝに至れり。「シヤラムウゼン」銀行組合の一八五六年の營業報告は此近き將來に來る可き獨逸工業の發達を豫言して曰く「ウェストフアリア」及「ライン」地方に於ける銑鐵及石炭の產出高は數年間に自耳義の夫れを凌駕するに至る可く、又若し國際競争上の最大要件たる低廉なる交通運輸の機關の建設が適當なる注意を加へられんには、將來英國の同工業と國際的市場に輸贏を爭ふも決して之が後へに落ちざらん」(J. Riser, Die deutschen Grossbanken, S. 33.) 序年ら本書の筆者「レオポルド・ヨセフ」氏が第四章大銀行及其商工業との關係に於て殊に其系統を踏襲せる博士「リサー」教授の大著「獨逸大銀行論」は、本書第一章の内容に相當する獨逸經濟發達論を

論するに實に、數十葉を割き極めて精透該博なる敘述論證を傾倒したるを一言せんと欲す。

本文中工業上の地方的分布又は地方的集中の一節を閲して覺えず聯想を禁じ得ざるものは最も宏汎深遠なる「マーシャル」教授の研究なりとす。教授は工業の地方的分布若くは地方的分化 localization of industry, local specialization of industry, geographical distribution of industry の主要原因を相して、自然的又は物質的條件が一定の工業に適應すること及低廉運輸地域内に炭坑、鐵鑛の併存することによりとし、英國の鐵工業は初め薪炭の豊富な地域に興り後に至り炭坑近傍地に移れるを舉證し、更に地方化したる工業は容易に其故家に執着するの傾向を説き、轉じて工業地方化の利益を詳論す。次いで生産經濟より販賣經濟に及び些細の買物は最寄の小店にて辨す

るも、重要な買物には縦し遠くとも名聲高き大店に赴く可く、隨て高價且選擇を要する物件を商ふ店舗は必ず市内交通の衝に聚合するに反し、然らざる店舗は市内に散在するを存在の要件となすを指摘し、此勢を助長するものは都市交通機關の完備、低廉及均一にありとし、後之を擴充しつゝ國內交通運輸の完備及低廉は必ずや工業の地方的分布を急調ならしむ可きを挙げ、英國近世の事例に依りて之を實證したり。教授は更に進みて、如上企業に相當なる資本勞働の集中を行ひ技術的分業に依る經濟の程度と一工業を少數の大企業に集中するに依る經營上の經濟の程度、即ち前者 内延的經濟 internal economics と後者、外延的經濟 external economics の功程を比較し、其後述す可き大量生産 Grossproduction と大規模經營 Grossbetrieb の論理的前提が以上の二經濟を適當に組合はすことに存するを

論じたり。(Marshall, Principles of Economics, p. 267-277.) 思ふに「マーシャル」教授の内延經濟とは工業的分化及集中に相當するものにして、大企業の眞髓は分化及集中の適當なる結合の上に築かる可きこと明なりと雖も、こは獨り工業にのみ限れる問題にあらずして、近世銀行の經營も亦之と揆を一にするなり。

其五

一般支拂を輕便にし流通通貨を擴張すると共に之を以て短期資金を蒐集せんとする目的の下に先づ多數の銀行券發行銀行 Notenbanken の開設を見、一八七一年に於て三十行を數へたり。之と同時に信用銀行 Kreditbanken 即ち謂ゆる動產信用銀行 Credit-mobilier-Banken も亦頻りに勃興し、一八四八年「シヤムハッセン」銀行組合 A. Schaaffhausen'scher Bankverein は「フン」に設立せられ、一八五三年商工業銀行(ダ

「ムステ銀行」(Bank für Handel und Industrie (Darmstädter Bank)) 設立せられて其住所を「ダムステット」に定め、一八五一年に創設せられたる割引會社 Disconto-Gesellschaft は一八五六年組織を變更して伯林に開設せられ、又同年中伯林商業會社 Berliner Handelsgesellschaft 及「マイニンゲン」に於ける中部獨逸信用銀行 Mitteldeutsche Creditbank 創設せられ、稍々後れて一八七〇年獨逸銀行 Deutsche Bank は伯林に、又一八七二年「ドレスデン」銀行 Dresdner Bank は「ドレスデン」に各々創設せられたり。而て是等の銀行は悉く株式組織銀行 Joint-stock banks, Bankaktiengesellschaften の形式を探るに至れるは注意す可しとす。此信用銀行なるものは一國金融系統中、大體に於て英國の預金銀行 banks of deposit 或は佛國の商業銀行 banques commerciales と略同一の地位に立てるものにして、今獨逸に於ける其用例を定むるに「リーサ

ー」博士に従へば、銀行券發行銀行 Notenbanken 不動産抵當銀行 Hypothekenbanken 建物銀行 Baubanken 仲買銀行 Maklerbanken 保險銀行 Versicherungsbanken 及工業的企業の發起金融を專業とする金融會社を除ける他の凡ての銀行を指稱するもの、如く、發行銀行及不動産銀行は固より英米の預金銀行の營業に比較し、非常に多岐複雑なる經營上の特質を兼ね有するものとす。(Rieser, a. a. O. S. 23 u. 24) 即ち利子付又は無利子預金を受けて銀行營業資金の要部を構成し、預金者の爲めに債務決済所たる職分を盡すと同時に、其蒐集せる資金を商業手形の買入及證券擔保の貸付に運用するに止まらずして更に進みて工業的企業の發起、組織變更、増資等に關係して自ら其社債等を發行し、企業の新設及設備擴張等に要する巨額の資金を調達するを以て銀行の當然營む可き業務となすものなり。

獨逸に於ける商工業及銀行業は實際上完全に聯環せられ其關係の密邇せる膠漆も嘗ならざるものあるは今の勢なりと雖も、當年に於ける信用銀行の使命を顧みれば此狀勢を育めること寧ろ當然なりと爲さざる可らず。而かも當年各銀行の資本金は今日の尨然たる資本の大集團に比較すれば實に霄壤の差あるを覺ゆ。即ち「シャフハウゼン」銀行組合の今日の資本金は七百二十五萬磅なるも元は七十八萬磅、割引會社の現在資本金は一千萬磅なるに對し當時は百五十萬磅、「ダルムステット」銀行の現在資本金は八百萬磅なるも當時は二百十三萬七千五百萬磅、獨逸銀行並に「ドレスデン」銀行は今日各々一千萬磅の資本金を擁有すれども元は各々七十五萬磅及四十八萬磅の資本金を有せるに過ぎず。

註、資本及製力の大集中より觀察し世界の最大銀行とし謂へば、先づ英國の呂以帛銀行及獨逸の獨逸銀行に指を屈したりしが、最近

以上舉示したる伯林の割引會社及「シャフハウゼン」銀行組合との合同の成立するに至りて、此新合同銀行は實に一千五百萬磅の大資本金を擁有し、嘗に歐洲のみならず世界無比の大銀行として現はれたるものとす。(London Bankers' Magazine, July, 1914, p. 14.) 寔に大銀行 Grossbanken, bigbanks の一語之を象徴す可し。

獨逸諸銀行の資本金は其大に増資を助長したる所の有限責任會社法規規定の下に、殆ど凡て無記名式株券の發行に依りて調達せられ、又例外なく全部拂込たるものとす。獨逸人は夙に銀行株に投資するを好むの性癖を有するが故に、銀行株の發行募集は毎に非常の成功を博せざることなし。

保險會社の發起も亦一八五〇年乃至一八六〇年の十年間に最も活潑に行はれ、一八五三乃至五七年間に設立せられたる保險會社は二十五社

を出でたり。

註、保險會社殊に生命保險會社は或意味に於て金融會社なりと謂ふ可く、各文明國に於ても銀行及保險會社の消長隆替が屢々眞影相伴ふものあるを見るは此所以に外ならずして、著者が保險會社の起業に言及せるは其所を得たりとす可し。抑々生命保險會社の營業が銀行と相係はる點は、前者が保有する彼の鉅大なる責任準備金又は法定準備金 *reserve, legal reserve, net premium reserve, deposit net value, true value, legal net value* 並に降りて右の責任準備金以外の剩餘準備金又は非常準備金 *surplus, unassigned surplus, invisible surplus, contingency reserve* の利殖的運用又は金融的運轉の一事に係るものとす。思ふに生命保險業の内容が固有業務と金融業務とに大別せらる可くんば、前者が後者に比し性質上更に重要なものみならず、後者の兵站部たる

責任準備金は前者の保險契約高の増減に比例して消長するものたるを認むと雖も、如今同業者間の自殺的競争愈々熾烈なるに當りては古く且大なる保險會社が寧ろ固有業務上の懸進を手控へ既に蒐集し得たる準備金を運用するを以て足れりとする所の金融業務を重要視せんとする傾向あるは最も自然的なりとなす可く、隨て其銀行の貸出業の一部と相交錯するや一層密接なるものあらん。唯責任準備金は固有業務の確實を保障するに就て「グスタフス、スミス」の謂ゆる「生命保險業の大錨」*the great sheet-anchor of life insurance* たるものなるが故に、其運用の方向は必ずしも信用銀行の夫れと同一ならざること尠しとせざるのみ。(拙稿中央大學講義錄銀行論一二〇乃至一三〇頁)

獨逸の銀行株が専ら無記名式株券の形式に於て發行せられ且常に全部拂込たることは注意す

可しとす。株式の賣買讓渡は技術上簡便に行は

るゝのみならず、之に依り新に株主たるには何等の責任を伴はざるが故に、其賣買は大に助長せらるゝと同時に、斯くして蒐集せられたる資本金は非人格的特質を有するを以て、有限責任會社又は株式會社は最も強く近世資本的企業を民主的にし且鞏固恒久的ならしむる方法なりとす。一般公衆は株券の單なる取得保有に依りて直に資本的企業に關係し得。一八二五年に於ける普魯西領内の有限責任會社は其二十一社を以て株金總額百八十萬磅、次の二十五年間に於て會社數一百を以て資本總額三千三百萬磅に増大し、降て一八七〇年には三百社を以て資本總額一億二千五百萬磅に達したりしが、中に就き鐵道會社は三千七十五萬磅、銀行は五百萬磅保險會社は八百萬磅、鐵道會社は二千六百萬磅の資本を有したり。而て一八七〇年にありては工業上の諸企業が有限責任組織を採用せるものあり

しを見ず。

註、當年大企業漸く顯はれ、人格的聯索亦漸く絶たれんとしたる時、佛蘭西の大哲學者「オーギュスト、ロムト」は、一八四八年中、此難關の眞箇の解決は「高尚なる精神力が其從屬者に對する強固且習慣的の義務觀念を以て一般の雇主の心理に透徹する」に依りて行はる可きを説き、更に此種の精神力の鼓吹は小企業者よりも大企業者に對して有效なるを認め「間斷なき企業の膨脹發達の傾向」は吊するよりは寧ろ歡ぶ可きことを痛論したりき。(Ashley, op. cit. pp. 178, 9.) 此「ロムト」の企業家の道德化論の雇主の良心を開發するあり、更に國家は工場法の制定に依り又勞働者は勞働組合の組織に依り動機及方便を異にするも努力の功現はれて茲に勞働者の地位は輒ち改善せられたりと雖も、雇主雇人間の人格的聯索は大企業にありて、却て益々弱めら

れ、近世資本主義と經濟的合理主義とは企業の目的を唯單純に營利に限定せしめ、經濟的合理主義の命令する計畫と功程と計算又は現金化との前に、機械と法人とは勞働者及企業家の人的要素を、機械力及資本力に改變したり。(Sombart, a. a. O. 186 u. 187.) 而て此「ゾンバルト」の謂ゆる資本主義的精神又は「シュモラー」の謂ゆる營利衝動をして其活動を遑うせしめたるもの、是を一八六二年英國の企業に移入せられたる、有限責任株式會社 limited liability joint-stock company 即ち著者の謂ゆる有限責任會社と爲す。而て今日の時代を株式組織主義 joint-stockism と爲すは多數の學者の認むる所なりとす。今「アッシュレー」教授の論する所に從ひ、資本主義の發展並に株式組織運動に顯はれたる特徴を瞥見せんと欲す。蓋し是れ單に英國に限れる現象にあらず。又單に銀行業工業の企業に限局せられた

る問題にもあらずして、實に文明國に共通し又一般の企業組織の根柢を振撼せる大問題たればなり。(Ashley, op. cit., pp. 179-190.) 株式組織は資本の調査を助長せること寧ろ意想以上に出で、同時に勞働と資本との關係を一層非人格的ならしめたり。株式會社の重役は自らが株主の受託者たる觀念を強く感得し、株主に對する道德上其資格に於て利益の爲めに慈善の歡びを犠牲と爲さざる可らず。而て株式の無制限且不斷の賣買讓渡の爲めに、唯配當の高率なるを見て高價に讓受け來れる新來の株主は、絶へず企業の捻出せる大なる利潤も低き利廻りを與ふるに過ぎざるを訴ふ。斯くて株主の強請苦壓は自づから重役をして唯馬車馬の如く收益増嵩に全力を傾倒せしむるに至り、勞働者に對する雇主の道德化が却て、大企業に在りて薄弱なるを致せるは自然の勢たらずんばあらず。然れど他方に於

ては工場法等に顯はれたる國家の監督あり、又勞働團結の勢力強大なるものありて、勞働改善の叫び絶へず。是に於てか企業は内外二面の壓迫より罷脱せんが爲めに、自ら活路を見出さざる可らずして、近世資本主義的發展は常に此需要に應じたるものなり。而て此發展の形式は常に英國のみならず、米獨等有ゆる重要工業國が等しく歩みたる共通の軌跡にして、此發展運動は凡そ左の四箇の特徴に依り表象せらる。曰く、(一)大資本の蒐集に依る經營の集中 Concentration (二)生産全過程を縱斷的に一企業支配の下に成全せんとする積分的集中 Integration (三)國內及國際的に同種工業に従事する凡ての企業を橫斷的に結合せんとする獨占的合同 monopolistic Combination (四)各企業間に聯帶の感念發達し、勞働團結に對し集合的行動に出でんとする組織鞏固なるを致せる對勞働者集合的行動 Collective Action in the face of labour 即ち是

なり。斯くて教授は其以下數葉に亘りて此資本主義發展の四特質を論證したるが、第一は概ね工場制度及株式組織の發達に一致し、未だ諸種の製造業が、家内工業制度に依り營まれ、時に仲間組合の片影を見る英國よりも米獨兩國に最も顯著なるを指摘し、第二は從來簡別の企業に依りて經營せられたる生産全過程を一企業内に成全せんとするものにして、米獨に於て各々「カーネギー」及「クルップ」に依り經營せられたる如く、製鋼業の可能的全過程即ち採鋼採炭より機械船艦の製造までを一企業の下に兼營せんとすることを説き、第三は協約及合同の二形式に大別せらる可く製鋼業者等の國際同盟を例證し、且保護政策と合同との關係を説き、更に總括して一定工業に従事する企業數が倍指し得るの域に達すれば、自由競争を試むよりも寧ろ同盟を結びて市場を支配するの有利なるを感得するに至る可く、實業界の神經はもはや競争の緊張に

耐へずして、安全保障を確保せんとする人類の欲求は工業的組織を變革しつつある。最大働因の一たるを論じ、最近の一學者が獨占的性質を有する世界の十八大合同の表を調製したりしが、かの競争の形式が運賃より設備に推移したる鐵道及海運協約を除外したるの非を挙げ、最後の特徴は殊に英國の機械船舶製造業者協約に顯著なるを叙説して此項を終れり。

誦し來りて教授の暢達の名文精透の論理茲に資本主義發展の特徴を闡明して餘蘊なきを覺え、更に「マースハル」教授の有ゆる原因現象を羅致し來りて秋毫も洩らすなきを期したる工業組織論と相併びて研究する者の幸福を想ふ。而て本書第四章説かんとする所の銀行集中運動の原因及形式も亦概ね此範圍を出づるものにあらずして「アッシュレー」教授の列舉したる以上資本主義發展の特徴愈々有ゆる工業的企業に露出し來りて企業の集中益々熾烈を加ふるや。其設備及經營調達機關としての信用銀行亦集中の大勢に乗せざる可ら

ざるは論を俟たずとす。我學界にありて廣く集中運動の諸現象を明解するに「リーサー」博士の系統を踏んで、更に凱切簡明の研究を試みたるものに高垣商學士の近業「銀行集中論」あるは逸す可らずとす。

此長き傍註に筆を洗ふに先立ち、一顧を吝む可らざるものは「ゾンバルト」教授が勁拔の比喩を以てせる近世資本主義的企業家論の一節なる可し。曰く、「近世資本的企業者を描ける最適の畫面は一身中に正反對の二性質を兼ね有するものとして、描寫したる人格ならざる可らず「フュウスト」の如く彼は其胸に二精靈を秘む、されど「フュウスト」の二精靈の如く、分離分奔す可きことを希はず、却て其矛盾せる二精神は其居して調和的に活動せんことを望めり。然らば此二性質とは何ぞや。曰く、一は廣義の企業家的精神にして他は商人的精神なり」(Sombart, a. a. O. S. 127.)

(未完)

『經濟政策』に關して再び

松崎壽氏に答ふ

山本美越乃

本誌五月號に經濟政策の意義に關して、曩きに松崎氏によりて提出せられた疑義に對して、予の信する所を答へ置きしに、其後六月號に重ねて同一の質疑を提出せられた。時恰も予は南洋に出張不在中で、直ちに卑見を開陳する機會を得なかつたが、歸來再び氏の説を讀み先きの疑問は依然として疑問の儘に残つて居ることを發見した。併し予は今日と雖も尙ほ予の所信を變更するの必要を認めない。惟ふに之れは斯學に對して氏と根本的の見地を異にして居るからであらう、氏が往々予の卑見を曲げて解釋するゝが如くに予は氏の主張の要點を曲解して居る者ではない、否氏の主張の要點は誤解なく了解

して居る積りである。併し遺憾ながら其説に賛成することが、出來ぬと云ふに過ぎぬ、從て此種の論争は今後更に回を重ねることも、氏の言を借りて云へば徒らに論争の爲めに論争するの譏りを免れざるに至るであらう、故に予は重ねて貴重紙面を塞ぐことを躊躇したが、再度の氏の質疑中には少くとも卑見の尙ほ氏に依りて正しく解せられて居らぬ點のあることを發見したから、之れを明らかにするは説の賛否の問題は別として予の當然の義務であると信じ、茲に後ればせながら再び拙稿を寄することゝしたのである。

凡そ人類の生活狀態を或は經濟的の方面より觀察し、或は社會的の方面より觀察して、吾人の研究物體となすも、然かも是等の兩方面は全然獨立分離して、毫も其間に關係又は交渉を有しないものではない、何となれば經濟的生活と云ひ或は社會的生活と云ふも、元と是れ複雑極